平成 22 年度　教育課程編成にあたって

小　国語

1　平成 22 年度に求められる取組

(1) 年間指導計画の作成

①　指導事項の系統性，3 領域 1 事項の関連等を踏まえ，「いつ」「どこで」重点的に指導するか明らかにする。

②　児童の実態を踏まえ，それぞれの単元において，身に付けさせたい力を確定し，どんな言語活動を通して指導するのか明確な計画を立てる。

(2) 単元や教材の開発

「伝統的な言語文化に関する事項」について，地域に伝わる伝説などの郷土資料を教材化するなど，新学習指導要領の趣旨を生かした単元や教材の開発に努める。また，例示された言語活動例を参考に，ねらいにせまるためのより有効な言語活動を開発する。

(3) 配慮すべきこと

現行学習指導要領による場合，ローマ字の指導は第 3 学年で追加して行う。

2　教育課程編成上，参考となる取組例

(1) 国語科を中心とした教育課程全般で意図的・計画的に読書活動を取り入れている事例

6 年～「宮沢賢治フェアを開こう」～

児童が主体的に学ぶために，読書課題探究プロセス(見通し・深める・まとめる・広げる)を設定し，単元学習を進めた実践。宮沢賢治の生き方や読みの視点を教科書教材で学習しながら，並行読書で他の作品を読み進めた。まとめの段階では，作品について自分の考えをまとめ，広告カード（ポップ）等を作って紹介し合った。

(2)「伝統的な言語文化に関する事項」についての事例

6 年～「古い物語に親しもう『一寸法師』」～

古文独特のリズムを楽しむことができるように，学習活動の中に音読や斉読等を繰り返し組み入れた実践。さらに，解説資料の叙述に着目しながら登場人物の行動や発言を読み取り，昔の人の考え方に気付くようにさせたり，「御伽草子」の中から他の物語を読み，古文へ読書の幅を広げたりした。

(3) 年間指導計画の作成例

実施時数，反省事項を記入し，次年度への改善に生かす。

時期	領域時数	単元名	学習活動	主な指導事項等	主な言語活動【育成する能力】	各教科等・各領域等との関連	予定時数	実施時数	反省事項

言語活動を具体的に示す。また，言語活動を通して身に付けさせる力を明確にする。

国語科における他の領域や各教科等の関連を明記する。

3　教育課程編成上の Q&A

Q1　第 3 学年のローマ字指導の教材はどのように準備するのか。

A1　教材については，各学校の実態に応じて適切に工夫して指導に当たる。

Q2　移行期間における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の評価はどう行うのか。

A2　現行の「言語事項」の評価と同様に行う。

問い合わせ　仙台市教育センター　Tel 022-251-7441